

宮津市廃棄物減量等推進審議会 第1回資源循環検討部会 会議記録

日 時：令和4年9月2日(金) 午後1時30分から3時00分まで

場 所：宮津市防災拠点施設2階会議室

出席者 ※敬称略

○委員（瀬戸享明、黒岡芳子、笠井裕代(リモート)、古橋由季（リモート）、
小畑晴美（リモート）、松田高正（リモート）、小谷美穂（リモート）、
山川 肇（リモート））

○オブザーバー（岩崎靖之（リモート）、片山禎彦（リモート）、居村 真）

○事務局（今井副市長、山根部長、廣瀬課長、山本係長、井上主査）

欠席者 ※敬称略

○委員（幾世健史、小西 均）

1 開会

2 部会長あいさつ

3 報告事項

(1) 令和4年6月6日開催の宮津市廃棄物減量等推進審議会について

4 議事

(1) 宮津市プラスチック等資源循環促進条例【新条例】の制定の概要について

【条例名称について】

(主な意見)

- ・高齢者の意識も変えていく必要がある。新しい条例を市民のものになるように難しい中身だといけない。言葉も難しい。市民が馴染みやすい、別名〇〇というように工夫してはどうか。
- ・お年寄り、子供も、こういうことをやっていくというのが分かり、皆が簡単に口ずさめるものが良い。
- ・「ごみは宝」というものをどこかに入れてもらえれば、市民にも馴染みやすいと思う。
- ・宮津市以外の労働者や外国人労働者もいる。宮津市のごみの分別について細かい。こんなにごみを分別する地区は余り見ないというような話を耳にする。一層、尖った感じに「日本一ごみを細かく分別する町」をPRしてはどうか。
- ・前回の名称からプラスチックにフォーカスした中身になり、今後、市民の皆さんや事業者が取り組んでいくには分かりやすく良いかと思う。
- ・「美しい阿蘇の海を残そう」とか「美しく」という言葉があると良いのでは。
- ・抽象的な言葉だと条例から離れていかないだろうか。そこが難しいと思う。
- ・条例となると漢字や難しい言葉も出てくる。実行するのは市民になるので、条例とは

別に噛みくだいた柔らかい言葉にした内容の市民向けのメッセージや冊子が出来たら良いなと思う。

- ・脱炭素社会につながっていく、循環型社会につながっていく、義務感だけでなくやっけて楽しいワクワク感をどこか条例の中に表現されてはどうかと思う。

→

(部会長)

- ・京都市では、「京都市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例」の別名で、「しまつのこころ条例」を広報等でも愛称を使って耳馴染が良いのか使いやすい。宮津らしい言葉で何を目指しているのかイメージできる言葉、名称、ニックネームがあると非常に良いことだ。
- ・「わくわく感」「楽しい」という言葉も何度か出てきた言葉なので、大事にした形で名前が付けられる、あるいはメッセージを出せると良いのではないかと思う。
- ・ブランディング出来る名称として何か出せるキーワードもあれば良いのではないかと思う。
- ・「美しい海を残そう」は、割りとプラスチックや環境共生にも少し繋げやすい表現だと思う。
- ・「プラスチック」をキーにしながらか資源循環でというところを離れすぎてもイメージが伝わらないかと思う。適度な距離感で、プラを循環することでどうしたいかの部分が見えるほうが伝わると思う。
- ・名称や言葉については、普段からアンテナを張っていただいて、こんな言葉が良いなと思ったら事務局へどんどん投げてください、最終案まで議論していただければと思うので、普段から蓄積していただきたい。

【新条例：前文について】

(主な意見)

- ・脱炭素社会だけの特出ししている感じがする。
- ・3つ目の「海洋プラスチック問題」も入れてはどうか。
- ・目指すべき将来像について、具体的でなくても良いので、市民の力によってこういう宮津をつくっていかうというメッセージ性のあるものを前文に加えてはどうか。
- ・「観光地宮津にふさわしい美しい街にしよう」というような内容に。
- ・「皆でごみの減量化に努めよう」というような内容に。

→

(部会長)

- ・こういう将来像にしていかうというのはとても重要なこと。今回の条例は、理念条例であり、こういう街を皆で作っていかうというメッセージが伝わるかが勝負なので、良いキーワードがあると良い。イメージがわく言葉があれば良い。
- ・前文のところでもう少し観光のところを強調しても良いのではないか。

【新条例：総則について】

（主な意見）

- ・プラスチックにフォーカスしてゼロカーボンを目指す中で、条例の立て付けを見ても余りプラスチックという言葉が出てこない。具体の条文を定めていく中で、プラスチックという言葉が出てくるのかなと思う。
- ・観光客にも協力を要請していくことが重要。
- ・観光地のごみが多いということで、観光事業者全てに負担がかかるのはつらい。
- ・観光協会及び旅館組合においても現在、SDGsの取り組みを進めている。
- ・市民や観光客に対して、市からの分別の説明が十分出来ていないのではないか。
- ・プラスチックがすべて悪いと論じられがち。そうではないということも今後PRしていくべき。
- ・プラスチックだけを強調するのはどうかとも思う。

→

（部会長）

- ・総則には、確かにプラスチックという言葉が出てない。プラスチックにフォーカスして打ち出そうということなので、総則の中で適切に資源循環の前にプラスチック等を入れていくし、目的のところで必ず入らないといけない。ご指摘いただいたところは、事務局で対応いただきたい。
- ・持続可能な観光地「宮津」をアピールする中で、これを位置づけるのもありではないか。
- ・「市民と観光客の責務」で今回入れている。わりと珍しいパターン。
- ・「観光客の責務」ということだけでなく、例えば「連携」のところや場合によっては「基本理念」のところに「観光客と共に」という側面を入れるというのは、ご意見としてあるのかなと思う。
- ・観光客をパートナーとして積極的に意識して位置づける。そして、観光客にどうメッセージを届けてどうタグを組んでいくか知恵をしぼるというのが重要なポイントになると思う。
- ・廃棄物全体の削減は、別途条例があり施策もあって、重なりつつも少し違ったほうが良く、色は出していったほうが良い。
- ・「指針」という言葉が書かれている。「指針」だと少し外から来たものという感じがして、自分達の方向性であれば「方針」のほうが良いかと思う。ただ、「指針」の方が、尖った感じがするので、方向性というものを特に出したければ、それも有りだなと思う。

【新条例：具体の対策について】

（主な意見）

- ・以前、教育現場にいた。環境教育が大事だと思う。学校だけでなく、いろんな所で環

境教育を推進していくことが条例を実施していく上でも重要だと思ふ。

- ・市民の学習する場を作っていく必要があると思ふ。現状が今どうなっているかを市民にも情報提供する必要があると思ふし、積極的に参加する市民も増えてくると思ふ。
- ・スーパーなどではプラスチック容器に入っている物を紙製品に替えれば、プラスチックも削減になる。
- ・コロナで施設でも紙製品になってきている。イベントで紙製容器を発注するが、今品切れの状態。プラスチックの削減が、国あげての意識になってきていると思ふ。
- ・サロンなどでも袋を求める人がいる。マイバックを持参するよう推進していくことが大事。
- ・私達の団体では、毎年1回不用品バザーを開催して、毎回完売している。自治会単位でバザーするのも良い。
- ・最近では冷蔵庫が大きくなったが、買い過ぎをしない、食品を腐らせないという意識も重要。地元産の野菜を買うというのもCO2削減になる。賞味期限と消費期限は違うもの。スーパーの食品ロスをいかに減らしていくかも、ごみ減量化に向け一人ひとりの気持ちが必要。
- ・学校教育で環境教育はされていることが多いが、大人になって社会人になるとそういう機会がかなり減ると感じている。企業単位で、市が講義をするのも有効だと思ふ。ただ、社会との繋がりが希薄な高齢の方はどうするのかという課題は残ると思ふ。
- ・プラスチックごみがマイクロプラスチックごみにならないように、ごみ箱をたくさん設置するのも有効だと思ふ。
- ・ホテルでは、テロ対策や安全面での危機管理の面でパブリックスペースにごみ箱を置いていないので、ごみ箱をたくさん置くにはリスクが高い。
- ・他の地区と比べて一人当たりのごみ量が多いのが、観光客が多い要因のひとつであれば、観光客にごみの削減に協力してもらおうというのを入れても良いのではないかと。
- ・施策をやっていく上で、観光客にも分かりやすいように例えばステッカーを工夫して貼るなどの取り組みが今後必要ではないかと。
- ・子供達にも食育を通じて、ごみのこと学んでいただきたいので、分かりやすいものができたら良い。
- ・ごみを減らすのを嫌だと思わないで、楽しみながらごみが減らせる何かあれば良いと思ふ。
- ・与謝野町では以前、B4サイズの絵の入ったポスターを作っていた。非常に分かりやすく今でも冷蔵庫に貼っている。市民が取り組みやすい環境を作っていくのが大事。
- ・スーパー各店舗にごみ箱を設置している。宮津市の店舗では、観光客が多く観光客の持ち込みごみが非常に多いので、ごみ箱の設置については慎重に議論が必要だと思ふ。
- ・リゾート事業もやっている。一戸建ての家の屋内には、分別のごみ箱を設置しているが、都会から来られた方は、分別に関係なくまとめて入れられるので、そのあたりの取り組みができたら良いかと思ふ。
- ・文珠地区には、ごみ箱が観光地で少なく、ほぼ無い状態。ポイ捨てごみが増えてきている。観光客用のごみ箱を設置していくことには賛否あるが、設置については検討や議論が必要。
- ・タバコのポイ捨てごみも同様。喫煙所の設置についても賛否あるが、同様に議論して

いく必要があるのではないか。

- ・観光客の客室に分別のごみ箱を設置するには、既製品のごみ箱を置くのは難しい。
- ・シティホテル系では、アメニティをフロントに設置して、逆に使用量が増えてきたという事例もある。
- ・前回の会議で、特養施設で大量の紙オムツのごみが出るお話をした際、リサイクルが進んでいるというお話もあり、少し調べてみた。
- ・なかなか商業ベースに乗るまでにはいっていき実証実験の研究段階かと思っていた。
- ・紙オムツにはプラスチックが入っている。吸収する成分ポリマーがプラスチック。リサイクルを進めることによって、プラスチックごみを減らせると思う。
- ・宮津市内に特養が5つある。全体の定員は340名で、宮津市の人口の割合では2%ぐらい。日々、大量の紙オムツを消費してごみが発生している状況の中、プラスチックごみとしていかに減らせるか、今後、特養同士で話し合いをしていきたいと思う。

(オブザーバー)

- ・これから町づくりをしていく上で、子供達への環境教育というのは非常に重要だと思う。
- ・条例の中で是非検討いただきたいのは「情報発信」の視点。取り組みを効果的に実施するには、内外に情報発信していく。「宮津市 天橋立」のブランディング、地域の特色として発信されたほうが良いと思う。
- ・例えばハワイではコロナがあけて観光客が戻ってくるに当たって、グリーンな取り組みを題材的に発信しており、ブランディングのひとつとして実施されている。
- ・グリーンな取り組み、サステナブルな取り組みを効果的に情報発信していくことも検討いただきたい。

(オブザーバー)

- ・環境教育が重要という意見があった。非常にうれしく感じた。新条例が脱炭素社会の構築、循環型社会の構築がメインとなるようなことが書いてあるが、「自然共生」の観点からも是非検討いただきたい。

→

(部会長)

- ・プラスチックだけ別枠にするのは、少し浮いている感じがするので、「プラスチック等の資源循環の促進」の中に「資源循環の促進」を入れても良いのかなと感じた。
- ・紙製の素材に変えていくというアプローチとマイバックを持っていくというリユース型の取組で変えていく。3Rの優先順位からいくと、リユースが先になるが、両方活用するうまく組み合わせることは重要。
- ・ヨーロッパでは、紙容器にするという新製品開発で経済につなげていく動きもあり、地元の産業とどうやったら脱プラが進むか、そういう視点も重要。
- ・体力があるうちに、ごみ屋敷を作らないのは重要である。リユースに出していけるような機会づくりを高齢者とこれから高齢者になっていく方と協力してやっていくことが重要。

- ・代替素材、リユース、プラ製品の再利用の話もあった。関連が大きなところでは、「自然共生」の話が入らなくてはどうかという意見があったがどうか。
- ・海のプラごみを減らしていくことは、海の生き物を守ることになる。マイクロプラスチックは、プランクトンの中に入り込んで、生態系全体のプラスチック汚染にも繋がる。そういうリスクがあるということで地球環境問題として取り上げられている。環境共生、プラスチックの話は、関連が強いが、そういった側面を強調して3本柱でいくのか、プラスチックを特化した出し方が良いのか。
- ・興味深い点では、「高齢者に知らせていくことが大事」という話もあった。「高齢者への環境教育」と書くと反発があるかもしれないので、例えば「高齢者の3Rを支えるための学習の場づくり」とか、言い方には工夫が必要。
- ・「観光客と一緒にやろう」という話もあった。観光客に伝えるということと学習は少し違うが、場合によっては、そこを繋げて考えることもできると思う。
- ・企業との連携、特に観光業界の方々と環境教育を一緒になってやっていくというのは是非入れていただきたい。
- ・高齢者福祉系の事業者と一緒に何か出来ることがないかを考えることもとても大事なことだと思う。
- ・360度全方面でいろんな方と連携しながら環境教育・学習をやっていくというアプローチをもっと出していても良いかと思う。
- ・テロ対策以降、ごみ箱が置けないという状況が広がってきていて、ごみは持ち帰るのが当然という意識がまだ出来ていないというところが大きな課題となっている。
- ・環境学習や教育の中に、地域だけでなく観光客に向けてもしっかり伝えていく、メッセージを発信することも重要という話もあった。ごみ箱を増やすという方向ではなくて、少なめの状況で問題がない方向にどうもっていくか、工夫と知恵を働かせる必要がある。
- ・タバコのポイ捨ての話もあった。タバコもフィルターがプラスチックごみ。フィルターにはタールなど有害物質が含まれており、厄介なプラの散乱ごみ。「綺麗な海」「観光地を守る」という観点からも、もう一度改めてタバコの散乱ごみを考えいくというのもありかなと感じた。
- ・ブランディング、発信について、観光客とタグを組もうとなると、ブランディングして事前に伝わっていかないと中々対応してもらえない。環境教育の学習だけでなく世界に向けて発信するぐらいの勢いで「発信」という部分も入れていくのが必要なのかと思う。
- ・高齢者には伝えれば良いというものではない。これまでの生活習慣が染みついているので今まで通りにやる側面もある。新しいことが中々出来ないということもあるが、理解して何かするというよりは、環境を変えるとかサポートしていくことを考えていく必要がある。最近流行りの「ナッジ」というものもあるが、環境を上手く整えることによって自然と行動がそっちに行くように仕向けていくというのとも考え方だと思う。
- ・紙オムツは重量比で言うと半分くらいがプラスチック。高吸収ポリマーとそれ以外の表面は不織布で出来ているが、不織布もプラスチックなので、紙オムツもかなりの使い捨てプラスチック。
- ・商業ベースでやっているのは、大体燃料化にしているぐらい。紙を紙に戻したり、高

吸収ポリマーを再利用するという実験もあるが、実験段階。なかなか商業ベースで使えるところは少ないかもしれない。

- ・使い捨てプラスチックごみを減らすという中に、そういったごみも含まれるというメッセージを出していくのも必要。

【ごみの分別について】

(主な意見)

- ・移住してきた方は、ごみの分別が出来ていない。移住して来られた時に、市のほうできっちり分別方法を説明してもらえるとありがたい。
- ・これから先、高齢者が増えてくると、分別自体がやりにくくなり、対策をどうしていくか。
- ・ゴミの分別については、事業者としてもなかなか減らせなく苦慮しているところ。
- ・子供達は、ごみの分別の意識が割と高齢の方よりも高いと思う。意識づけなど環境教育も必要だと思う。
- ・4歳の孫がいる。ペットボトルの蓋と側は外さないと駄目だよというぐらい子供達まで浸透しているので、親もしっかり分別しないといけないと思う。

→

(事務局)

- ・市外からの移住者については、「ごみ分別大辞典」の冊子をお渡ししており、冊子を見てごみを出していただいている。直接対面での説明が出来ていない。

(オブザーバー)

- ・中間処理施設の観点からの発言。市民の皆様には分別をお世話になっている。事業者ごみも一部受け入れており、一部の事業所で分別がしっかり出来ていない状況があり、処理をするのに事前に手選別でごみを分別している。
- ・分別されずに排出される事業所からのごみがかなりあると見受けられる。
- ・一般廃棄物処理場は、市民からの税金により建てて運営している。事業者の負担感というお話もあったが、処理にのっとるような分別にて排出をお願いしたい。事業者の責務として十分認識いただきたい。

【まとめ】

(部会長)

- ・今回いただいたご意見を一定抽象化して条例の条文の中に取り込むものと、具体的な取り組みとして指針の内容の中に取り込むものと、事務局で整理しながら、ここまでいただいた意見を次回はこの意見はここに入れてこんな案になっていますという説明をお願いします。

(2) ごみ減量化について

宮津市ごみ減量化及び資源化調査等

(部会長)

- ・一般事業系ごみ調査について、現況調査について少し詳しくどのようなことをやっているのか教えていただきたいと思います。

→

(NTTビジネスソリューションズ)

- ・現況調査の具体的な内容についてですが、事業者様ごみの内、可燃ごみのなかで、生ごみの占める割合が多いと想定されます。どれくらい生ごみが含まれるのか、施設によっても生ごみの割合が違っているのではないかと想定しております。
- ・生ごみを減らすことによってどれくらいごみを減らすことができるのかということについて9施設調べさせていただいたなかで宮津市様全体ではどれくらいになるのかの想定を出すことに取り組んでいるところでございます。

(部会長)

- ・実機実証実験について、ハーベストさんから何でもよいので所感をいただきたい。

→

(・・・委員)

- ・7月29日に設置していただいたものの、夏休みで本格的に使用し始めたのが8月30日からでまだ詳しいごみの量がどうなるかまではわかりませんが一か月使ってみてどれくらい残渣が減るか楽しみにしております。
- ・運用課題についても、もう少し使用してからみていきたいなと思っております。運用したものの意見としては蓋を開けたときに臭いが気になるようです。

(部会長)

- ・先行事例調査について、類似観光都市についてどのようなところを考えていてどのような調査を考えておられるか教えてください。

→

(NTTビジネスソリューションズ)

- ・類似観光都市については松島町、城崎温泉のある豊岡市、福井県あわら市・坂井市を選定しております。
- ・宮津市様と類似している日本海側の観光都市を宮津市様とご相談の上選定させていただいた次第でございます。
- ・調査内容は、一人当たりのごみの量であったりリサイクル率であったりを公表されているデータを元に比較させていただいております。類似観光都市様へのヒアリングは実施しておりません。

(部会長)

- ・現況調査は事業系のごみの組成調査をされているということでしょうか。

→

(NTTビジネスソリューションズ)

- ・調査の方法としては9施設様にご協力を得てというかたちになっており、調理段階などでごみを分けていただきながらそれぞれの割合を調べる予定です。

(部会長)

- ・生ごみかいなかの判断は事業者さんの方で判断し、100%分別されていると仮定してどのくらい生ごみがあるかという推定する調査の認識でよろしいでしょうか。

→

(NTTビジネスソリューションズ)

- ・ご認識の通りでございます。

(3) その他(事務連絡)

- ・次回会議 審議会全体会(対面会議)
日時：9月30日(金)14:00～
場所：宮津市福祉教育総合プラザ

8 閉会